

農 民

食と農をまもる共同を

農民運動全国連合会(農民連)

〒173-0025 東京都板橋区熊野町47-11
社医研センター2階

☎03-5966-2224 FAX03-5966-2226

http://www.nouminren.ne.jp/

E-mail:shinbun@nouminren.ne.jp

毎週月曜日発行 定価月550円 1部140円(送料別)
会員の購読料は会費に含まれています

農民連青年部第28回総会



農民連青年部は2月8、9の両日、第28回総会を東京都内で開催し、約30人が参加しました。

ポリコ所長を囲んでパチリ!!

総会での発言から

福島県須賀川市の奥井地洋さん
新規就農して丸2年。親は農家ではなく自らの意思で就農しました。1年目に農業次世代人材投資事業の申請をしたら、研修中に準備型をもらっていた経験もあるにもかかわらず、須賀川市は「就農後、1年経過しないと開始型を受け付けない方針」と言い、門前払

いをしました。
市の勝手に国の政策をゆがめるのはどうかと、農業普及所に相談に行っても一人だったので「市の方針だから」と手にされず、泣き寝入りをしていました。就農1年までもう少しの時期に、須賀川農民連の飲み会で相談したところ、農業委員と一緒に市に話をしてくれ、無事に1年目から申請ができました。一人で話をしたら、ま

と早く相談
かったと思
ら就農する
にできるよ
が働きかけ
います。

寄せられ
渡辺茂博
(41)東京
私はもう

家族農業を大切に使う 自然資源を大切に使う

特別企画には、国連食糧農業機関 (FAO) 駐日連絡事務所のチャールズ・M・ポリコ所長と家族農林漁業プラットフォーム・ジャパン常務理事の斎藤博嗣さんを招いて、「家族農業の10年」について学習しました。

FAOポリコ所長が講演

ポリコ所長はFAOが持続可能な開発目標 (SDGs) の達成で重要な役割を果たしていることを紹介。「マラリアや結核、エイズの死者より飢餓で亡くなる人が多く、SDGsの達成には飢餓問題の解決が不可欠。飢餓の要因は気候変動と紛争で、食品ロス

問題も深刻。廃棄食品から発生する二酸化炭素は中国とアメリカに次ぐ排出量に相当する。自分たちで未来を悪くしており、食品廃棄を簡単に考えないでほしい」と呼びかけました。

なぜ今家族農業なのかについてポリコ所長は「自然資源を大切に使う家族農業だからこそ、気候変動の悪化を防ぎ、持続可能な社会を作れる」と自らの若い時の経験も交えて説明。「どんな弱い立場の家族農業も国連は助けなければなりません。そのためには知識の共有と教育が重要です」と話しました。

質疑では「FAOから客観的に見た日本農業の

持続可能な社会を作ろう

分析センターも
見学しました



現状はどうか「大規模企
業的農業の評価は」など
様々な質問が出ました。

環境教育の 最前線に立つ

「農民の権利宣言や
『家族農業の10年』は土
と共に暮らしてきた先人
たちの英知に立ち返れと

いうメッセージだと思
う」という斎藤さんは2
005年に東京都板橋区
から茨城県阿見町に新規
就農で移住しました。
「家族農業こそ大いなる
学びの場」ととらえ、不
耕起・無農薬・無肥料で
自給自足型農業を実践し
ています。

家族農業は「家
族とともにある農
業」と定義する斎
藤さんは、「FA
Oの事務局長は
『家族農業以外に
持続可能な食糧生
産のパラダイムに
近い存在はない』
と言っています
が、日本では家族
農業が大事にされ
ていません。若い
人たちに農村のイ
メージのアンケ
ーを取るとたくさ
んのマイナスメ
ッセージが出てしま

た」と話します。
それに対し斎藤さんが
願う農村の未来像を「本
質的な教育がある」「生
涯現役」など10個にまと
め、「その実現には家族
農業の持つ力が欠かせな
いと思っています」と家
族農業の大切さを強調。
「私たちは地球を救う最
後の世代。毎日土に向か
っている百姓は、環境教
育の最前線に立ってい
る」との思いで、日々周
りにメッセージを交えて発
信している内容を紹介し
ました。

食糧と国土を守る 仲間を増やそう

その後のグループディ
スカッションでは「消費
者にも問題意識を持って
もらうために教育が重
要」「家族農業を残すた
めにベーシックインカム
(基本的収入)の導入も
必要では」「就農希望者

は増えているのに農業者
は増えていない。希望者
と現場をマッチングでき
る組織に農民連がなっ
てほしい」などの意見が出
されました。

2日目の総会では「普
段の農作業を発信して、
一緒に食糧と日本国土を
守ってくれる仲間を増や
そう」と青年部組織を広
げる方針を参加者全員で
採択。奮闘する決意を固
めました。

また総会では、農民連
の藤原麻子事務局長と
全商連(全国商工団体連
合会)青年部協議会の根
本遼事務局長、全労連青
年部の森彩香常任委員、
日本民主青年同盟の青山
昂平中央常任委員が連帯
あいさつを行いました。

主な新役員は次の通
り。部長 平間徹也(再、
宮城)、副部長 山村聡
(再、群馬)、事務局長 川
渡辺信嗣(再、本部)

たはぐら
かされた
と思いま
す。もっ
と早く相談しておけばよ
かったと思うし、これが
ら就農する人がスムーズ
にできるように、農民連
が働きかけられたらと思
います。

ですが、食・農業の重要
性に気づき、将来農家に
なろうと思っています。
その参考になるのではと
参加しました。

まずはFAOのポリコ
さんのお話で、機関の存
在、活動などを初めて知
り、食生活に対して色々
な活動されていることに
感動しました。

ただ、世界規模での活
動であり、その地域に応
じて問題が多様化してし
まい、それぞれの実情に

合った具体的な解決策を
提案するのが、大変では
ないかと思いました。

ただ、できることの活
動をすることだけでも大
変重要で、意味のあるこ
とだと感じています。

斎藤さんのお話では、
まず生活自体が、家族一
体となって自給自足を基
本として、あとは少しの
収入でやっておられて、
理想の、たくましい家族
の生活を美観されている
と感じ、大変勇気づけら

れました。
自然と共に生活し、環
境にやさしい人間の本来
あるべき形を提唱されて
いると思いました。

それに加えて、そらい
った意識を国内だけでな
く国際規模で広めていく
ために、様々な活動をさ
れていると知り、できる
ことなら、私たちが自身も
見習わなければならない
と思いました。

今後は、私たち国民
個々の考え方が社会を左

右していくと思うので、
まずは自分たちが生活を
実践して、後に生活の
形の一部として、提案
していこうと思いまし
た。

農家の方々と色々お話
してきて良かったのが、
自然、土壌に対しての負
担と、生活に関わる収入
とのバランス、価値観
(消費者も含む)が解決
しなければならない一番
の問題だと予想以上に感
じたことでした。

寄せられた感想

渡辺茂彦さん

(44 東京都杉並区)

私はサラリーマンなの